台東区立台東育英小学校

Ｎｏ．10　統括校長　瀬下　清

http://www.taitocity.net/taitouikuei-s/

「教育の力」を信じて

統括校長　瀬下　清

柳北公園の梅の花もほころび始めています。この季節に花が見事に開花するためには、厳しい冬の寒さにしっかりさらされなければなりません。寒気が花の芽を蕾へと促し、満開へと導いてくれます。人もまた同じです。鍛錬のときがあってこそ、飛躍のときがくるのではないでしょうか。台東育英小学校の子供たち一人一人が、この一年間で、学んだ力をもって、春爛漫の新年度を迎えてほしいと願っています。

さて、旧柳北小学校の校舎での生活も１年と半年を終えようとしています。休み時間には、校庭で元気よく楽しそうに遊ぶ子供たちの歓声が響いています。柳北小学校と育英小学校の時代からずっと続いてきた、この光景は、何とも嬉しく、穏やかな気持ちにさせてくれます。

一方、世界に目を向けると、ウクライナの街が戦禍となって１年が過ぎました。今日も戦場では、兵士や民間人が亡くなっています。また、大地震に襲われたトルコやシリアでは、５万人を超える多くの方々が犠牲になっています。貧困や飢餓で苦しむ国も多くあります。戦争や自然災害などで、一番苦しむのは、必ず弱い立場の人たちです。一日も早く戦争が終結すること、一人でも多くの命が救われることを願って止みません。

私自身、決して裕福な家庭に育った訳でもなく、一人っ子として、病気がちな母親の面倒を見ながら少年時代を過ごしてきました。縁あって、学校教育に携わる身となり、弱い立場である子供たちが、強く生きていけることを願って働いてきました。そして、教育は、子供たちを幸せにしていく力であると信じています。

東日本大震災で、避難所となった宮城県立石巻高等学校のエピソードです。甚大な被害を受け、学校の校舎が避難所となり、石巻高等学校の生徒、そして、その OB,OG の皆さんが、ボランティアとして、必死に働いたそうです。そんな中、避難者の住民の方々が、作った旗が掲げられたそうです。それは、ボランティアで働いている石巻高等学校の生徒たちに向けてのメッセージでした。書かれていた言葉は、「勉学に励め」でした。お礼や励ましの言葉ではなく、「教育の力」で、未来をつくってほしいとの願いであり、希望を託したのです。

これからも台東育英小学校の教育活動が、子供たちを守り、希望を育て、未来をつくる力となることを信じながら、日々の学校運営に努めていきたいと考えます。

最後になりますが、令和４年度も、本校の教育活動に対しまして、保護者や地域の皆様の温かい支えがあり、ここまで無事に学校運営を進めてくることができました。心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

３年生　３学期の学校での様子

３年担任　早川　隆盛

暖かな日差しに春の訪れを感じるこの頃。３年生として過ごす時間も残り少なくなりました。

１月に行われた持久走記録会では、去年の自分の記録を超えるために、体育の時間以外にも自分たちで空いている時間を活用して練習したり、友達に走り方やペース配分をアドバイスしたりしていました。また、席書会では、だるま筆の扱いに苦戦しながらも、丁寧な字を書こうと試行錯誤していました。友達同士で励まし合い、諦めずに頑張る姿も見られました。これらの様々な行事を通して、１・２年生の時より友達のことを考えて行動できるようになったと思います。国語科の研究発表会では、１年間を通して得た知識を基に、積極的にワークシートに考えを書いたり、発表したりと、一生懸命頑張る姿が見られました。来年からは、４年生として様々な場面で下級生に頼られることが増えてきます。下級生のことを考え、模範となっていってほしいと願っています。

金管バンド１年間の活動・定期演奏会

金管バンド担当　阿部　裕介

台東育英小学校金管バンドは、現在４年生８名、５年生１５名、６年生９名、総勢３２名で活動しています。今年度、夏のコンクールでは心を一つにみんなが団結し、持てる力を出し切ったことで、東京都小学校吹奏楽コンクール金賞・全日本小学生バンドフェスティバル東京都大会銀賞という素晴らしい成績を修めることができました。また、バンドフェア・体育発表会・音楽会での演奏を通し、演奏経験を積み重ねていく中で、少しずつ金管バンドとしての自信を付けることができました。

４月当初、４年生は上手に音を出すこともできず、毎日楽器と格闘していましたが、毎日の基礎基本を積み重ることで、立派に楽曲を演奏できるようになりました。５年生は後輩にきめ細やかに教えることを通して、先輩としての自覚や、昨年度よりもさらに自信が持てるようになった実りある年となりました。最高学年６年生は、バンド活動３年間の集大成として皆をリードし、励ましながら金管バンドを支えてくれました。その姿は、先輩としてとても頼もしい大きな存在となりました。そんな輝くかけがえのない仲間と共にした時間を忘れずに大切にしていってほしいと願います。

さて、今年度も地域の方々・世話人の皆様をはじめ、多くの方々のご協力のもと、感染対策に留意しながら第２２回金管バンド定期演奏会を開催することとなりました。限られた時間の中で、仲間と自分を信じて成功に向かって気持ちを一つにすること、最後まで諦めず、自分たちの音楽を作り上げること、そして、３２名全員が主役になる定期演奏会になるよう練習をしてまいります。最後に、今年度ご尽力いただきました保護者や地域の皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

お別れスポーツ大会・6年生を送る会に向けて

５年担任　　栗原　和恵　　藤井　泰宏

今まで最高学年として学校を引っ張ってきた６年生に、感謝の気持ちを伝えるための機会がやってきました。今年度は、縦割り班活動や全校遠足、体育発表会や音楽会等、様々な場面で活躍してくれた６年生。その感謝の思いを伝えられるよう、縦割り班のメッセージカード作りや６年生を送る会、お別れスポーツ大会に向けて、全員で協力しながら一生懸命に準備を進めてきました。

６年生を送る会では、３部に分かれる全ての司会を５年生の代表委員が務めました。第３部の５年生の出し物では、６年生に関わるクイズに取り組み、途中には６年生を笑わせるための寸劇も組み入れていきました。６年生の喜んでいる姿を見て、今までの感謝の気持ちを伝えられたように思います。

２月２８日、３月２日に行われるお別れスポーツ大会では、ビーチボールバレー大会を行います。６年生に楽しんでもらい、思い出を作ってもらうために、大会の進行や審判、得点なども全て５年生が担います。

このような会の企画や運営を受けもつことは、６年生への感謝の気持ちを伝えるだけでなく、来年度、最高学年になるための準備にも繋がっています。この大きな行事を経て、在校生の代表として、この台東育英小学校を引き継ぐ学年として大きく成長することを期待しています。

クラブ活動・クラブ見学について

特別活動主任　　髙橋　芳絵

クラブ活動とは、学年や学級の所属を離れ、共通の趣味・関心をもつ異学年の仲間と協力して、生活がより楽しく豊かになるように、自主的に計画したり、実行したりする活動です。

クラブ活動と学習活動とは相互に関連し合うものです。例えば「学級で習った縄跳びの技を、クラブのみんなでやってみよう。」と、教え合う活動が挙げられます。ただし、単に教科の延長としての知識の定着や技能を高めるだけのものではありません。個々に習熟の差があっても、高学年の児童が下学年の児童の思いや願いに寄り添いながら、創意工夫を生かし、どの児童も楽しめるように協力して取り組んでいます。そのため、クラブは、活動を通して気付いた自他のよさを学校生活の充実や向上につなげていくこともできる、素晴らしい活動と言えます。

１月と２月にクラブ見学がありました。クラブ見学とは、３・４・５年生がクラブの時間に活動の様子を見学するもので、それをもとに次年度のクラブの希望を考えます。活動を見せる高学年にとっても、成果を発表したり、見てもらうことで励みとしたり、1 年間のまとめとしたりすることができるよさがあります。３年生は初めてのクラブ活動です。ワクワク、ドキドキ、目を輝かせながら先輩たちの活動に期待しています。４・５年生も今年度と同じクラブを続けたいと思う子、新しいクラブに入りたいと思っている子など、活動を楽しみにしています。

今年度は、屋外スポーツ、屋内スポーツ、屋上スポーツ、ビーチボールバレー、イラスト、工作、パソコン、室内遊び、手芸の９つのクラブで活動しました。６年生を中心にみんなで協力して楽しい活動をすることができました。来年度のクラブ活動も楽しみです。